

乾徳山涸沢準備山行報告書

C1 上村拓

○日程

2014年7月12日(土)

○参加者(敬称略 7名)

M3 田中 久本 M2 堀江 加藤 C2 中武 C1 奥野 上村

○行程

高田馬場駅前日産レンタカー06:55～(車)～10:20 大平荘 10:35～12:10 扇平 12:25～13:20 乾徳山頂 14:00～15:45 国師ヶ原～16:45 大平荘～(車)～20:00 高田馬場駅前日産レンタカー

○本文

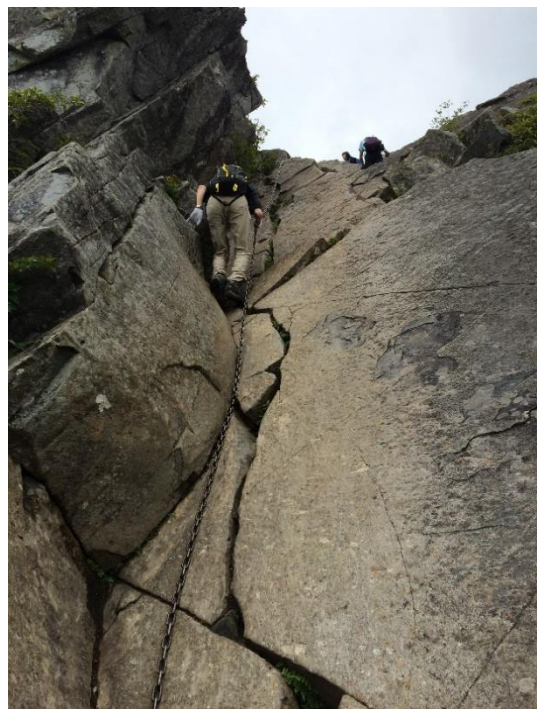
涸沢診療所開所を目前に控えた中、岩登り、特に鎖場に慣れようというのが今回の山行の目的である。登るは乾徳山、目標は勿論山頂手前の大きな一枚岩、杖棄岩である。台風の影響が懸念されたり当日の朝地震があったりと(緊急地震速報はよい目覚ましであった)実施が危ぶまれるようなこともあったが、天候が崩れることも地震の影響が出ることもなく、無事に登ることができた。

朝6:30に高田馬場駅前の日産レンタカーに集合し、乾徳山へ向かう。道はやや混んでいたもののさほど長い渋滞もなく、10:20に大平荘に到着。登山口へ向かう。だらだらと平坦な道を行き、乾徳山登山口に着く。大きな看板が立っていてとても分かりやすい。木立の中を抜けていくと整備された林道に出る。どうもここまで車で来られるらしい。こういうところに出ると少しがっかりするのは自分だけだろうか。実はこの後数回林道と登山道が



交差した。なんだかなあ、と感じつつも、ようやく完全に登山道に入った。前日の雨天のせいか道はやや湿っていたが、特別歩きにくいほどではなかった。1時間ほどすると、岩場になった。ようやく準備山行らしくなってきたという感。個人的に岩場は好きなので、気分が高揚しつつ高度を上げてゆくと、扇平に出た。広々と心地が良い。月見岩なる大岩(というほどでもないが)の陰で一休み。

扇平を離れてからも岩場は続く。鎖場も登場した。このあたりの岩場はホールドが多くあり登りやすいものだった。登山経験の少ない方々もスムーズに通過していたと思う。そしてついに本日の目標たる杖棄岩に到着する。自分にとっては初めての鎖場らしい鎖場である。私の前の三人はそう難儀することもなく登って行ったように見えた。いやあ、すごい。写真を見ればわかるが、一枚岩でホールドがほとんどない。流石にこれは鎖を使わなければならんなあと、



鎖に体重をかけながら登っていく。途中の足場でようやく一息つけた。ここまで来れば後は、とひょいひょい登って行ったら岩に膝をぶつけてしまった。事故を起こすのはたいがい何でもないところだということを身をもって知った。危ない、危ない。さて、杖棄岩を登り切れば山頂である。皆無事に山頂に到着。山頂からの見晴らしは上々。甲武信ヶ岳、国師ヶ岳、金峰山、大菩薩嶺などが見えた。休憩の後、国師ヶ原を目指す。下山に使った道は岩もあまりなく、とろとろと木立の中を





抜けてゆく。途中で鹿に遭遇。かわいいものだとすこし気分が和む。さらに歩いてゆくと国師ヶ原まであと 20 分くらいというかわいらしい看板が立っていた。鎖場をこえ、歩いてゆくが、20 分以上経っても国師ヶ原は見えてこない。少し休憩を入れ、再び鹿たちと出会ったりしつつ、国師ヶ原に到着。成る程、山と高原地図に書いてある通り、国師ヒュッテは手入れされていない

ようだった。それにしても、山中にあってこの綺麗に整備された道、やはり少し拍子抜け。関東の富士見百景なる場所もあったが、富士山はかすかに望める程度であった。国師ヶ原を抜ければ登山口まで間もなくである。ところが、出たのは行きで通った覚えのない場所。そういえば登りは道の脇に有刺鉄線なんてなかったよな、なんてことも考えつつ、まあさほどずれたところに出たわけでもなく、5 分ほど歩いて見覚えのある登山口に。ひとまず落着である。予定よりはやや早く大平荘に戻ることができた。帰りの道は混むこともなく、無事東京へ戻ることができた。

涸沢準備山行としては十分な岩場があり、目的は達成されたのではなかろうか。皆さんすすいと岩場をこなしていたので、不安なところはそうないかなと思う。後は、数匹の鹿に出会った衝撃は大きなもので、乾徳山でもこれから獣害が出てくるのだろうか少し心配になった。(鹿を見たとき最初に思ったことが、遭難してもこいつら食べれば生きていけるな、だったことは口が裂けても言えない。)



この報告書が出るころにはとうに診療所が開いている (遅くなって申し訳ありません)。我々自身が患者にならないことを祈る。